

## 加入目的をよーく考えましょう

■生命保険は、『なぜ』必要なのか？『いくら』必要なのか？『いつまで』必要なのか？『何が』必要なのか？『掛け捨てなのか？』『貯蓄性なのか？』

《加入目的》をよーく考えてみる事が「相談」につながって行きます。

加入する方と、同じ目線で『必要保障額』を、真剣に相談に乗ってくれるプランナーが最適なアドバイザーです。

■時にはかなり無駄な「保険料を投資する羽目」になるかも知れない、大事な家計費用の「有効利用」を示唆できるプランナーが最適な良き相談者です。

必要保障額は「独身」「結婚」「出産」「子育て」「教育」「住宅取得」「老後」など、いわゆる人生の「ライフステージ」により、大きく異なります。

「ライフステージ」に応じた保障金額を設定すると、より有効な「お金の使い道」ができます。

■究極の保険設定例は「例えば数億円という巨額な死亡保険金」「1日数万円と言う高額な入院保障」「？億円というガン治療費用」を、いつかは必ず「死ぬその日まで」保障される「終身」期間の保険。

どんな金持ちでも「こんな保険の加入方法」はしていないはず。なぜならあまりにも巨額な掛け金になるからです（筆者は断言できませんが予測できます）。

■そこで自分のライフステージにあった、適切な保障金額が分かれば上記記載した「究極の保険設計」ではない、究極の「有効な保険加入」を見つけ出す事が喫緊の目的なのです。

■それでは「必要保障額」はかなり難しいものなのでしょうか？人間の営みにかかわるものに、難しいものなど皆無だと思えます。ましてや現実に生きるためにかかる「生活費用」を、分からない人々は皆無だと思えます。これを教えてもらえれば、即座に現在のライフステージ（年齢条件）に応じた「必要保障額」が試算できます。

■生保は万が一の場合に備えて、日常生活を「安心」するために加入するのが目的です。「必要保障額」を基準に加入した生保なら、漠然と気休め加入していた時に比べて、「安心感」の満足度合いが極めてレベルの高い日常生活を送ることが可能になります。

■今でも気休め程度の認識で、生保加入を継続している人々がかなり大多数おります。気休めでも「究極の安心感」でも、ご自分の納得感がある生保商品を購入するために「生保加入の知恵袋」として、転ばぬ先の杖を書き留めました。

エコー保険(株)  
コラムニスト 松浦 則雄